

ならちゅうしん経営研究会
定例総会及び第 377 回例会報告

日 時	令和 6 年 7 月 17 日 (水)		
開催場所	グランドメルキュール奈良橿原		
内 容	第 1 部	総 会	15 : 00 ~ 15 : 40 (藤原の間)
	第 2 部	基調講演	16 : 00 ~ 17 : 40 (八重の間)
	第 3 部	懇 親 会	18 : 00 ~ 19 : 30 (藤原の間)

基調講演 講 師 株式会社協働日本
代表取締役社長 村松 知幸 氏
演 題 「変化の時代に勝ち抜く事業変革&組織変革について」

今年度も、ならちゅうしん経営研究会総会を、グランドメルキュール奈良橿原にて開催致しました。受付には例年どおり、NPO法人ならチャレンジドのご協力で、奈良県立高等養護学校の生徒さんにお手伝いをして頂きました。

(第 1 部) 令和 6 年度定例総会

第 1 部総会では、芳仲敏典会長よりのご挨拶の後、恒例に従いまして会長が議長を務め、議事を進行頂きました。第 1 号議案の令和 5 年度活動報告および令和 5 年度収支決算、剰余金処分(案)並びに監査報告について承認を受けました。続きまして第 2 号議案の令和 6 年度活動計画(案)および令和 6 年度収支予算(案)が審議され、全会一致で承認されました。

(第 2 部) 基調講演

第 2 部基調講演は、株式会社協働日本 代表取締役社長 村松 知幸 氏をお迎えし、「変化の時代に勝ち抜く事業変革&組織変革について」という演題でご講演を頂きました。

村松氏は、2020 年 2 月に株式会社協働日本を設立され、地域企業へのチーム伴走による経営支援・事業支援、企業向け人材開発・キャリアコーチングの事業をされています。4 年半で通算 180 社以上の協働プロジェクトを組成、支援されており、多数の自治体とも事業の受託をされています。

社会が急速に変化していく中で事業者も変わっていかないといけないとのことです。人的資本開示が進む中で、人事確保・定着できる会社とそうでない会社の二極化が進行していくことになり、今後、生産年齢人口が減少していく中で、地方企業における人材不足はさらに深刻化していくとのことです。人的資本経営により、働き手と組織の関係は、「閉鎖的」関係から「選び、選ばれる」関係へと変化していかないといけないそう

です。

副業人材活用には2つの型があり、自社にない機能を外部人材で埋める穴埋め型の方法と、地域企業チームと外部人材チームと一緒に目標達成に向けて取り組むワンチーム伴走型の方法があります。協働日本はワンチーム伴走型をとっておられ、これは、事業目標達成と同時に地域企業の組織能力を高めていくことができるそうです。

企業が成功し、成果が出るのは、互いの信頼関係や気づき・アイデアといった関係の質によるとのことで、鍵となるのは「心理的資本」であり、①自己効力感②楽観主義③希望④乗り越える力の4つが構成要素となっているとのこと。この「心理的資本」は鍛えることができるそうです。

よい結果が出た時、何故出たのかを解釈して、言葉にする、共有するということを自ら行い高めていくことで組織は活性化していくことができ、自ら考え行動していく人材が大切だそうです。

最後に事例紹介をされました。

経営者が成したい挑戦をワンチームで実現していくことで、地域企業が活性化した結果、事業成長、新規事業創出、組織能力向上が可能になるとのお話は、参加された方、全員が、真剣に聞き入っておられ、学ぶことの多いセミナーとなり、終了後も多くの質問や感想が寄せられました。



株式会社協働日本 代表取締役社長 村松 知幸 氏（基調講演）

(第3部) 懇親会

第3部懇親会では、まず冒頭に芳仲敏典会長よりご挨拶を頂き、続いて公益財団法人奈良県地域産業振興センター 奈良県よろず支援拠点 チーフコーディネーターの畑中伊知雄氏よりご来賓を代表してのご祝辞を頂き、奈良県産業部 経営支援課 課長吉村宗浩氏の乾杯にて宴が開かれました。歓談の後、山田育弘副会長より中締めのご挨拶を頂き、懇親会は盛大のうちにお開きとなりました。



芳仲敏典会長（懇親会ご挨拶）



山田育弘副会長（懇親会中締めご挨拶）